

## 詩歌

## 延山四季

武田海正

春 霧深く天女をまもる影嚮石

夏 春木川水音絶えて蟬の聲

秋 袈裟掛の松よりみゆる久遠寺

冬 雪ふみてひとりぬかつく御草庵

春秋八年を憶ひて  
懐かしの友へ

孝秀

この袖に來合せし人の縁かな

短歌  
近詠數首

石井綠線

◇午睡よりさめてみつむる電氣カバーに

蠅二三匹戯れおれり

◇姿見の前に立ち居て妹は

ほゝゑみて居りさも嬉しげに

二二八

◇いつしかに兒は共に歌ひ居ぬ  
我吹き居りしハモニカの音に◇秋の夜と鈴虫の音ともしひと  
我に來りてかなしみを待つ◇瀧に打たれ祈る人ありしふきさへ  
つめたく思ふ今日此頃に◇寥しさはいつ來たるらむ山里に  
尾花亂れて秋風を吹く

## 夕べの想

中澤小樹

夕陽あわく落ちて行く

山のあなたを眺むれば

何時も悲しきものの懷ひ

うせにし友を思はれて

若草萌える野にふして

君とうたひし春の唄

自然の匠と一如して  
想へば懷しバラダイス  
タベチ曲にさすらへば  
ラインの流その如く  
アルプス連峰影映へて  
いにしの姿かわらねど  
有爲轉變は世のならひ  
君は自然に歸れども  
自然を慕ふ孤影あり  
孤影の聲ぞこの詩篇

## 不變の理

中  
澤  
小  
樹

嗚呼鹿苑の朝より  
跋提河畔の夕まで  
横説堅説五十年  
高き理想のみ教も。

ヨルダン河に神の聲  
洗禮うけたるキリストの  
十字架上の極刑も  
あゝ人類へのメシアなれ。  
黄塵さかまく小町なる  
辻に立ちての雄叫びも  
寒山佐渡のかんなんも  
一切衆生の救済ぞ。  
げに大聖の一生は  
煩惱の犬を逐ひやりて  
苦提の鹿を招きつゝ  
下化衆生への一路なる。  
時世の流れ如何にせん  
宇宙の眞理大聖の  
遺命も阿片と捨て去りぬ  
されど上求の人々よ  
溫古知新のその中に  
不變眞理の輝きは